

三木町内遺跡発掘調査報告書

平成9年度国庫補助事業報告書

西浦谷遺跡

1998. 3

三木町教育委員会

は　じ　め　に

現在、埋蔵文化財に対する関心は日々高まりつつあり、適切な文化財の保護を図りながら、貴重な文化遺産を後世に伝えていかなければなりません。近年、三木町では開発事業に伴う発掘調査を通して、埋蔵文化財保存の動きが高まっています。そのような中で、三木町北部は国道11号高松東道路建設により大いなる飛躍を遂げようとしています。ここ池戸西浦谷地区においても、平成7、8年度の財団法人香川県埋蔵文化財調査センターによる一連の発掘調査により弥生時代後期前半の集落遺跡、古墳時代後期の土壙墓、古墳等の存在が確認されています。当町では平成9年度に同地区的南隣の民有地について、国庫および県費の補助により町内遺跡発掘調査事業を実施し、貴重な資料を得ることができました。

また、本報告書が今後の地域史解明の資料として、また文化財保護の一助として活用していただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成に際し、ご指導、ご協力をいただきました関係者各位に心より感謝いたします。

平成10年3月31日

三木町教育委員会

教育長 小川和夫

例　　言

1. 本書は、三木町教育委員会が平成9年度国庫補助事業に伴い発掘調査を実施した、西浦谷遺跡の調査概要を収録したものである。
2. 発掘調査及び本書の執筆、編集は、三木町教育委員会主事石井健一が担当した。
3. 実測及び整理作業にあたっては、下記の方々の御教示、御協力を得た。記して謝意を表したい。
國木健司、森下英治、森下友子、木下晴一、宮崎哲治、大嶋和則
4. 調査にあたっては、次の関係機関から協力を得た。記して謝意を表したい。
(順不同・敬称略)
側香川県埋蔵文化財調査センター、(株)ガイアートクマガイ、(株)トーヨーアナース
山本建材、(前)同栄社設計事務所
5. 発掘調査及び整理作業は下記の方々の協力を得て実施した。
天野静子、石田シズエ、植田正弘、植田ヒロ子、高藤ヨシエ、谷川広數、長尾マサ子
森山京子、應本俊、荒木和美、石原サヨ子、上枝竹雄、久保安雄、黒川巖、高橋キヨ子
高橋秀男、山内康郎、信吉純恵
6. 本書挿図中のレベル高はすべて海拔を表す。挿図の一部に建設省国土地理院発行の25,000分の1の地形図「志度」「高松南部」を使用した。
7. 出土遺物及び図面は三木町教育委員会にて保管している。

本文目次

| | | |
|-----|----------------------|----|
| 第1章 | 平成9年度三木町内遺跡発掘調査事業の概要 | 1 |
| 第2章 | 西浦谷遺跡発掘調査 | |
| 1 | 立地と環境 | 2 |
| 2 | 調査の概要 | 6 |
| 3 | まとめ | 11 |

挿図目次

| | | |
|------|------------------------------|----|
| 第1図 | 調査地位置及び周辺の遺跡 | 3 |
| 第2図 | 調査前地形測量図及び調査区位置図 | 4 |
| 第3図 | 遺構配置図 | 4 |
| 第4図 | 調査区中央土層断面図 | 5 |
| 第5図 | S H01, S K05平・断面図 | 7 |
| 第6図 | S H01出土土器実測図 | 7 |
| 第7図 | S H02, 03平・断面図及びS K03, 04平面図 | 8 |
| 第8図 | S K02, 03, 04断面図 | 8 |
| 第9図 | S K01, S D01平・断面図 | 10 |
| 第10図 | S H01, 造成土層出土石器実測図 | 10 |
| 第11図 | 遺物観察表 | 11 |

写真目次

| | | |
|-----|--------------------------------|----|
| 写真1 | 遺跡遠景（富士の越山頂古墳より） | 12 |
| 写真2 | 調査区近景（東より） | 12 |
| 写真3 | S H01完掘状況（東より） | 13 |
| 写真4 | S H02, 03, S K03, 04完掘状況（南東より） | 13 |
| 写真5 | S K03完掘状況（南東より） | 14 |
| 写真6 | 発掘調査作業風景 | 14 |

第1章 平成9年度三木町内遺跡発掘調査事業の概要

三木町の北部地域は一般国道11号高松東道路建設をはじめ開発が急速に進んでいる。これらの開発事業における埋蔵文化財の保護措置については三木町および香川県において適切な対処に努めているところである。このうち一般国道11号線の建設に伴い、平成7、8年度に跡香川県埋蔵文化財調査センター（以下「埋文センター」という）が事前調査を実施した池戸西浦谷地区の西浦谷遺跡においては、弥生時代後期前半の集落と古墳時代後期の土壙墓、横穴式石室を内部主体とする古墳等が検出された。西浦谷遺跡は比高30mほどの丘陵上に位置するが、調査の結果、丘陵頂部から南斜面にかけて広範囲に遺跡が展開していると推定されるに至った。

一般国道11号は、この丘陵を大きく削り込んで建設する計画であるが、埋文センターによる調査中に、調査地南側に隣接する土地の地権者より、道路敷設により丘陵部に急峻な崖が生じるため、維持管理及び災害防止のために残存部を削平したい要望があった。そこで当町教育委員会では、事業予定地の試掘調査を行い、埋蔵文化財の有無を確認することとし、平成7年10月12日に実施した試掘調査の結果、豊穴状遺構を検出し、保護措置を図る必要があると判断した。この結果に基づき、再度地権者と協議を行い、工事実施の要望が強く、事前調査を実施することで協議が整った。

土木工事に伴う発掘調査の費用負担については、事業者にその負担を原則として求めてきているが、今回のケースは事業者が個人であり、負担を求めるのは困難であると考えられた。そこで、協議の結果、当町教育委員会が事業主体となり、国庫補助制度を利用し、事前調査を実施することとなった。そこで当町教育委員会は平成8年12月27日、香川県教育委員会に平成9年度文化財関係補助事業計画の申請を行った。平成9年5月15日には国宝重要文化財等保存整備費補助金、県費補助金（埋蔵文化財調査事業費補助金）の内定を受け、平成9年12月22日付けで補助金交付申請を行った。発掘調査は平成10年1月5日より同年3月8日まで行った。

平成9年度町内遺跡発掘調査事業は、平成9年12月22日に開始し、平成10年3月31日に終了した。なお、発掘調査対象面積は1,312m²である。

第2章 西浦谷遺跡発掘調査

1. 立地と環境

三木町は香川県でも東部に位置し、北は木田郡牟礼町と大川郡志度町、西は高松市、東は大川郡長尾町、南は香川郡塩江町と徳島県美馬郡脇町に接する南北18.4km、東西5.8kmと南北に細長い形をしている。また、北部と南部には山地があり、北部の立石山地は最高峰の立石山（標高272.5m）、その西側に小野ヶ原山など標高200~300mの山塊を挟んで牟礼町に接する。南部では当町、最高峰の大相山（標高881.1m）、高仙山など標高500~600mの山頂が連なりをみせる。中央部では南方の阿讚山地に源流をもつ新川水系の諸河川と長尾町との町境を流れる鴨部川に沿って沖積平野が広がっている。

西浦谷遺跡は北部立石山地の山塊群の南西に位置する芳尾山（標高102.7m）を含む低丘陵部北端の小独立丘陵南斜面に所在する。当遺跡付近は低丘陵部と谷部が入りこんだ複雑な地形を呈しており、当遺跡からは南方向に新川水系の河川が流れる平野部を一望できる。

周辺の遺跡を考察してみると、旧石器時代については香川県教育委員会の試掘調査により七ツ塚4号墳の周溝部よりサヌカイト製翼状剥片が検出されており、町内では初めて旧石器時代の遺物が出土したものとして注目される。高松市十川東・平田遺跡では有舌尖頭器が出土している。

縄文時代については高松市前田東・中村遺跡からは後期前半の土器と晚期の造構、南天枝遺跡からは町内初の晚期土器の包含を確認している。高松市小山・南谷遺跡では晚期の落し穴状土坑も検出があり、同様の土坑が時期不明であるが尾端遺跡、西浦谷遺跡より見つかっている。

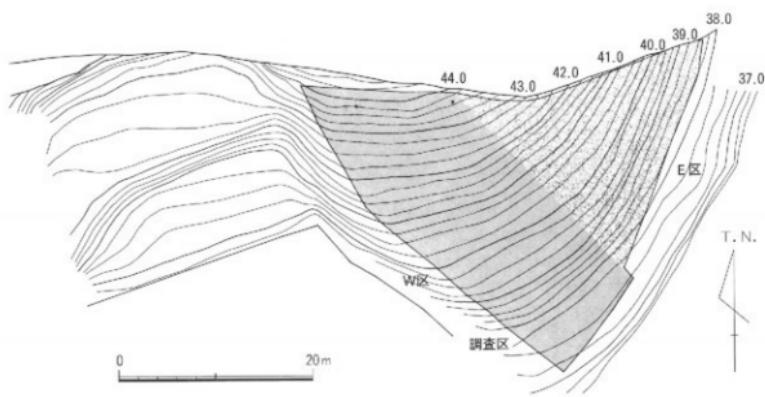
弥生時代に入ると、昭和35年、占川河川改修工事中に鹿伏東古川堤防から前期の遠賀川式土器が出土している。香川大学の農学部遺跡からは前期後半土器の包含層が広範囲で確認されている。福万遺跡においても前期土器が見つかっている。中期中葉になると鹿伏・中所遺跡においても竪穴住居が確認されており、集落の形成がなされたようである。中期末になる白山2遺跡、白山3遺跡、高松市久米池南遺跡など居住の場が平野部から山間部へと移り、高地性集落が営まれる。後期前半にかけても高地性集落は西浦谷遺跡で確認されているが、後期になると池戸鍋窓遺跡、砂入遺跡、西土居遺跡、鹿伏・中所遺跡など町内至る所で確認されており、丘陵縁辺部や平野部において集落が広範囲に展開していくと考えられる。なかでも鹿伏・中所遺跡では古墳時代前期にかけての竪穴住居が約70棟、掘立柱建物が約20棟検出されており、撿点集落であったと考えられる。また、同遺跡は土器棺が18基検出されており、東の天神山では古墳の下層より周溝墓を含む土塙墓群が確認されている。当遺跡を含む丘陵南端部の高尾遺跡では終末期の石蓋土塙墓が検出されており類例が少ない。丘陵中央部では昭和50年に香川医科大学病院の建設に伴い、箱式石棺、台状墓の検出で知られる権八原古墳群がある。

古墳時代に入ると町内唯一の前方後円墳である池戸八幡神社1号墳は全長約38mを測り、低平な前方部から前期初頭に位置付けられる。中期になると権八原古墳群で古式群集墳が検出されている。後期になると古墳の分布は西浦谷1号墳をはじめ町内全域に拡がりをみせる。当町の南部丘陵には諫訪カンカン山古墳群、城池古墳群、蛇の角古墳群、西土居古墳群など大型の群集墳が多くみられる。北部丘陵では風呂谷古墳、深谷古墳などの一単位の古墳が主流であるが、当遺跡の北部にみられる高松市平尾小古墳群のような大型群集墳もみられる。

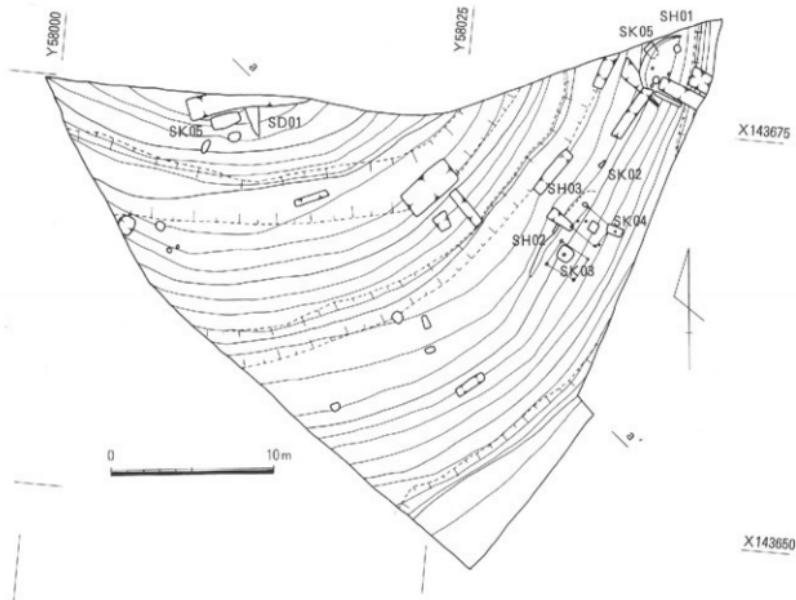


- | | | |
|-----------|----------------|-------------|
| 1 西浦谷遺跡 | 16 立石塚 | 31 鳥打大西谷1号墳 |
| 2 金石山1号墳 | 17 前田東・中村遺跡 | 32 鳥打大西谷2号墳 |
| 3 金石山2号墳 | 18 吉尾山古墳 | 33 白山1遺跡 |
| 4 金石山3号墳 | 19 権八原古墳群 | 34 白山2遺跡 |
| 5 金石山4号墳 | 20 高尾遺跡 | 35 白山3遺跡 |
| 6 金石山5号墳 | 21 池戸八幡社裏古墳 | 36 天神山古墳群 |
| 7 金石山6号墳 | 22 池戸八幡神社古墳群 | 37 麻伏・中所遺跡 |
| 8 平尾1号墳 | 23 池戸鍋洞遺跡（包蔵地） | 38 高野八幡社古墳 |
| 9 平尾2号墳 | 24 権八原遺跡（包蔵地） | 39 高岡城跡 |
| 10 平尾3号墳 | 25 七ツ塚古墳 | 40 農學部遺跡 |
| 11 平尾4号墳 | 26 始覺寺跡 | 41 池戸城跡 |
| 12 平尾小古墳群 | 27 富士の越山頂古墳 | 42 砂人遺跡 |
| 13 宝寿寺跡 | 28 尾崎塚 | 43 大塚城跡 |
| 14 椿社古墳 | 29 野越古墳 | |
| 15 深谷古墳 | 30 鳥打古墳 | |

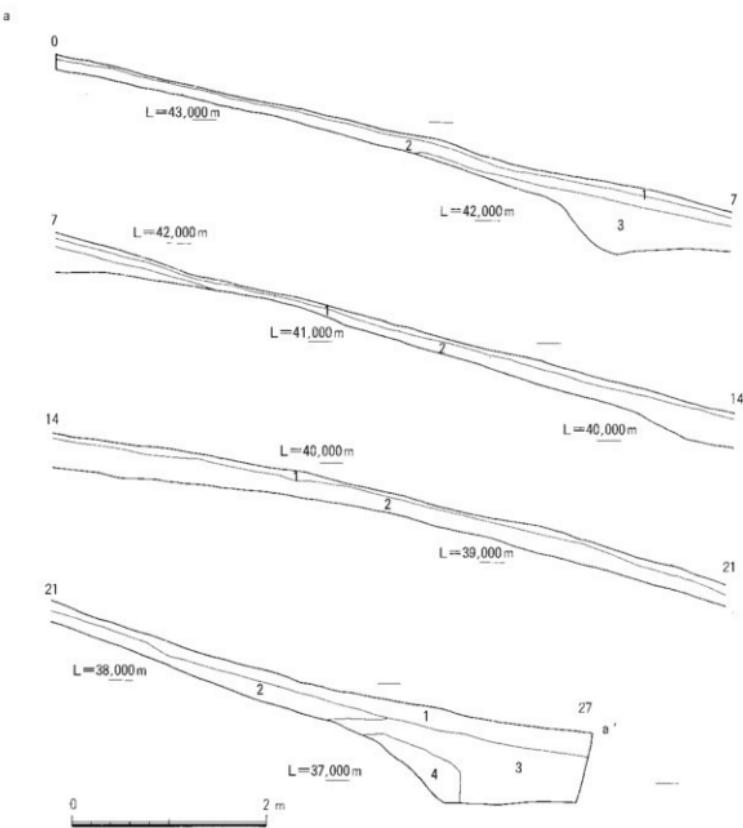
第1図 調査地位置及び周辺の遺跡



第2図 調査前地形測量図及び調査区位置図



第3図 遺構配置図



基本醫學

- | | |
|------------|-----------|
| 1 表 土 | 現代の造成後の堆積 |
| 2 暗黄褐色砂質土 | |
| 3 茶褐色砂質土 | |
| 4 地山のブロック | |
| 地山 紫灰褐色砂質土 | |

第4図 調査区中央土層断面図

2. 調査の概要

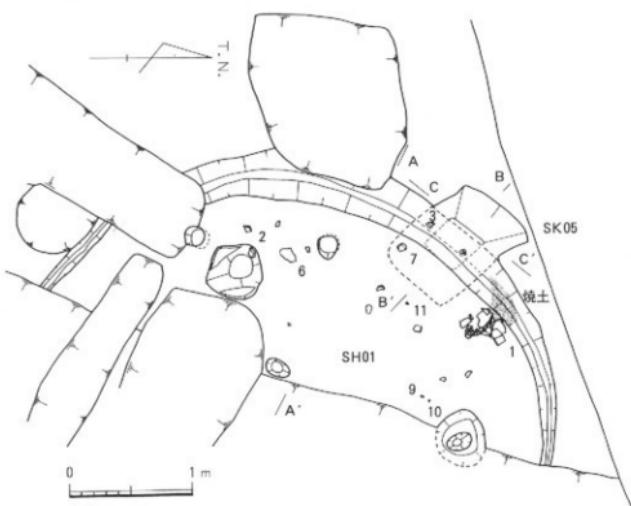
今回の調査では埋文センターが実施した発掘調査の基準杭にあわせて調査区を設定した。発掘調査は調査区内で排土処理を行うことから、W、E区の2調査区にわけて実施した。平成7・8年度の調査では丘陵頂部から南斜面にかけて弥生時代後期前半の集落域が確認されており、その拡がりが予測されたが、以前果樹園として土地利用がなされており、4段の階段状に造成されていた。そのため、包含層が確認できず、遺物量は少なく整地造成を免れた所でも遺構は希薄であった。基本層序は全て造成後の堆積によるものである。E区については竪穴住居を3棟、落し穴状土坑を含む土坑を4基とピット等を検出した。W区については土坑1基、溝1条とピット等を検出した。以下では検出した遺構の概要を記述する。

竪穴住居跡

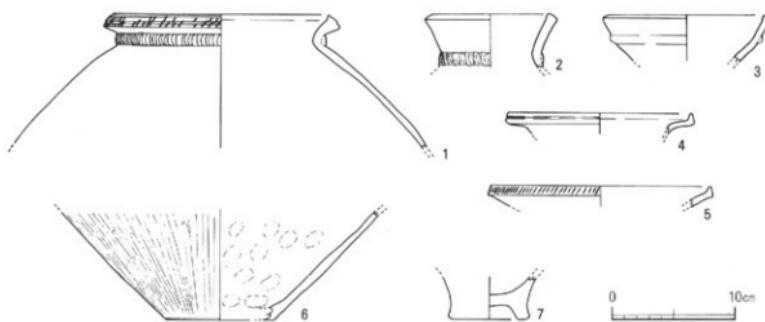
S H01 E区の北東隅部の丘陵南斜面において営まれた竪穴住居跡である。斜面で検出されたため下半部は残存しない。また、数ヶ所にわたり搅乱を受けているため遺構の欠損部分が多く認められたが、遺存部分より想定すると平面形は円形で、南北約4.5mを測る。また、壁際では幅8~25cmの壁溝が巡る。西壁際において焼土及び炭化物を広範囲にわたり確認したことから焼失家屋と考えられる。床面では2主柱穴を検出した。北側の主柱穴は底面中央部で浅い小穴がみられる。ここからはサヌカイト片を3点検出している。南側の主柱穴では検出面で焼土塊と石鐵を1点検出している。床面直上遺物としては弥生土器壺の口縁部、底部、甕、石鐵3点が出土しており、弥生時代中期後半に位置付けられる。

S H02 E区の南端部において検出された竪穴住居でS H01と同様に斜面上に構築されている上に搅乱の影響のため遺存部分が少ない。遺存部分より想定すると平面プランは隅丸方形を呈し、南北で約4.3mを測る。壁際より幅8cm、長さ40cmの壁溝が一部とピットを検出している。西壁際より焼土及び炭化物が認められたことから火災による焼失が考えられる。検出したピットより4主柱穴からなる竪穴住居である。遺物は弥生土器片が1点出土しただけで、詳細な時期は不明である。

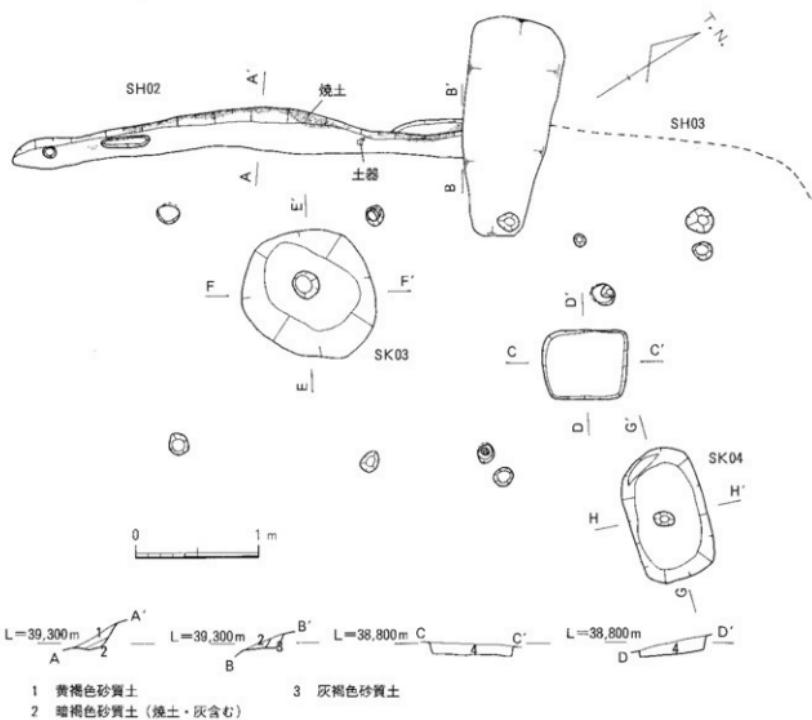
S H03 E区の南端部においてS H02と切り合い関係で検出された竪穴住居で、搅乱により遺存部分は殆どないが、上層の観察によるとS H02に先行することが判明した。遺存部分より想定すると平面形は隅丸方形を呈し、南北約3.8mを測る。検出したピットより4主柱穴からなる竪穴住居である。床面中央部では方形の土坑を確認したが、焼土及び炭化物の確認はできなかった。また遺物は出土していない。



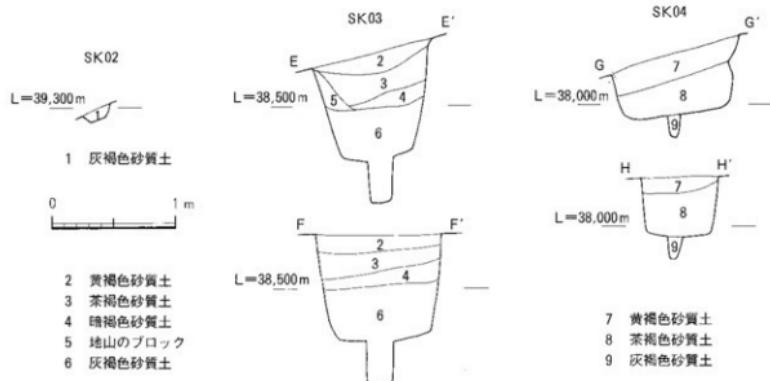
第5図 SH01, SK05平・断面図



第6図 SH01出土土器実測図



第7図 SH02, 03平・断面図及びSK03, 04平面図



第8図 SK02, 03, 04断面図

土坑

S K01 W区の北端で検出された土坑である。平面形は長方形を呈し、東西1.88m、南北0.82m、深さ0.3mを測る。土坑内の堆積埋土は灰黄色砂質土である。遺物は出土していない。

S K02 E区のS H03の北東で検出された小型の土坑である。平面形は長方形を呈し、長辺0.56m、短辺0.28mを測る。土坑内の堆積埋土は灰褐色砂質土である。遺物は出土していない。

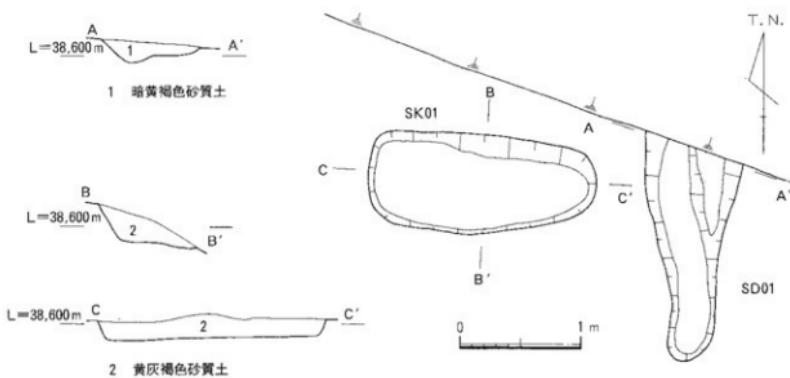
S K03 E区のS H02と同一面で検出した土坑である。平面形は、円形で南北1.1m、東西1.0m、深さ0.9mを測る。下部施設として土坑の底面中央で径0.2m、深さ0.36mの円形の柱穴が検出された。遺物は出土していない。

S K04 E区のS K03より2.4m南で検出された土坑である。平面形は長方形を呈し、南北0.62m、東西1.08m、深さは西掘り方で0.52m、東掘り方で0.4mを測る。土坑の底面中央で底面中央で小穴がみられる。小穴の深さは0.19mである。遺物を検出していないことから、詳細な時期については不明である。

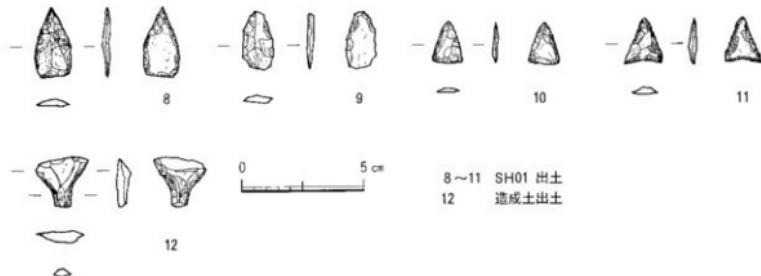
S K05 E区の北東隅部で検出時において確認できなかった土坑である。S H01の壁面精査中に検出したため、切り合い関係は不明である。平面形は遺存部分より想定すると長方形を呈していたと思われる。検出面で幅0.62m、深さ0.45mを測る。遺物を検出していないことから、詳細な時期については不明である。

溝

S D01 W区の北端のS K01の東で検出された、南北方向に延びる溝であるが、造成による搅乱が著しく、また、調査区より外れるため全容は明らかでない。検出長は1.75m、幅0.85m、深さ0.17mを測り、浅い2段落ちがみられる。遺物は検出してないことから詳細な時期については不明である。



第9図 SK01, SD01平・断面図



第10図 SH01, 造成土層出土石鎌実測図

3. まとめ

これまでの埋文センターの調査結果より弥生時代後期前半の集落と古墳時代後期の土壙墓・西浦谷1号墳が検出されており、丘陵頂部の平坦地と南斜面部に集落が展開していることが確認されている。今回の調査により広い範囲において後世の整地造成がみられたが、免れた所においても遺構が希薄であり、調査区の西半部においては集落が展開していないことが確認された。東半部北東隅で検出したS H01は出土遺物より弥生時代中期後半にさかのぼることが判明した。S H02,03については詳細な時期を決定できる資料がないが、丘陵頂部で検出された竪穴住居と同プランを呈していること、両者が切り合い関係にあることから中期後半から後期前半にかけての時期幅を想定するのが妥当であろう。

これまでの調査結果を踏まえると西浦谷遺跡は丘陵頂部から南東斜面部中位にかけて竪穴住居が検出されており、弥生時代中期後半から後期前半にかけて集落が営まれたことが考えられる。このことから集落の形成時期と集落の範囲を把握するうえで貴重な資料を提供することとなった。西浦谷遺跡は中期後半までさかのぼることから、同時期の集落遺跡として知られる白山3遺跡や高松市久米池南遺跡、前後する時期の鹿伏・中所遺跡との関係が重視される。

また、S H02, 03の同一遺構面で検出したS K03, 04に関しては底面中央に小穴をもつ大型土坑であり、土坑の埋土から炭化物が確認されていないことなど、竪穴住居との関連は薄いものと思われる。また、この土坑の下部に柱穴を有する構造から類推すると、落し穴の可能性が高い。この落し穴状土坑は県内の類例からすると縄文時代にさかのぼるものであり、今後、同時期の集落遺跡が周辺で発見される可能性がある。

参考文献

森下友子他 1996 「西浦谷遺跡」[国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成7年度] 香川県教育委員会他

森下友子他 1997 「西浦谷遺跡」[国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成8年度] 香川県教育委員会他

| 番号 | 生土器 | 器種 | 法量(cm) | 内面 | 外面 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|----|-----|--------------------|--------|-------------------------------|-------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------|----|
| 1 | 広口壺 | 横口径17.6 現存高10.9 | ナ デ | 円錐形凹窓2条のち肩耳 底部横凸窓 側部タテ方向ナデ | 良 にぶい赤褐色 | 1~5mmの石英・長石 を多量に含む 1mm以下 | 1~5mmの石英・長石 を多量に含む 1mm以下 | | |
| 2 | 広口壺 | 横口口径10.8 現存高4.4 | ヨコナデ | ヨコナデ 腹部横凸窓 側部タテ方向ナデ | 良 にぶい黄褐色 | 1~5mmの石英・長石 を含む | 1~5mmの石英・長石 を含む | | |
| 3 | 縦頭壺 | 横口径11.6 現存高3.8 | ヨコナデ | ヨコナデ 横部突起帯 | 良 にぶい黄褐色 | 1~5mmの石英・長石 を含む | 1~5mmの石英・長石 を含む | | |
| 4 | 壺 | 横口径18.0 現存高1.7 | ヨコナデ | ヨコナデ 上縁部割目 | 良 にぶい黄褐色 | 1~5mmの石英・長石・ 雲母を含む | 1~5mmの石英・長石・ 雲母を含む | | |
| 5 | 壺 | 横口口径15.0 現存高1.7 | ヨコナデ | ヨコナデ 上縁部凹窓1条 | 良 にぶい黄褐色 | 1~5mmの石英・長石・ 雲母を含む | 1~5mmの石英・長石・ 雲母を含む | 口縁に黒斑 | |
| 6 | 壺 | 横口径8.8 現存高9.0 | 出頭壺 | 出頭壺 タテヘウミガキ | 良 にぶい黄褐色 | 1~5mmの石英・長石 を含む | 1~5mmの石英・長石 を含む | 底部外縁に 黒斑 | |
| 7 | 壺 | 横口径6.0 現存高3.5 | ナ デ | ナ デ | 良 にぶい橙褐色 | 1~2mmの石英・長石・ 雲母を含む | 1~2mmの石英・長石・ 雲母を含む | | |

| 番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石 材 | 特 徴 |
|----|------|--------|-------|--------|-------|-------|-------------------------------------|
| 8 | 凸基I式 | 2.9 | 2.0 | 0.2 | 1.2 | サヌカイト | 完形。側邊は画面より打ち欠き鋭利である。 |
| 9 | 凸基I式 | 2.4 | 1.2 | 0.2 | 1.2 | サヌカイト | 先端を欠くのがほぼ完形。粗いつくりで未完成?風化が進む。 |
| 10 | 平基式 | 1.8 | 1.0 | 0.1 | 0.5 | サヌカイト | 完形。側邊は画面より打ち欠き鋭利である。画面とも乎坦面を残す。 |
| 11 | 凹基式 | 1.8 | 1.2 | 0.2 | 0.6 | サヌカイト | 完形。抉りは浅い。側邊は画面より打ち欠いている。画面とも乎坦面を残す。 |
| 12 | 有茎式 | 2.0 | 2.0 | 0.4 | 1.5 | サヌカイト | 基盤から茎部にかけて残る。茎部は丁寧なつくり。 |

第11図 遺物観察表

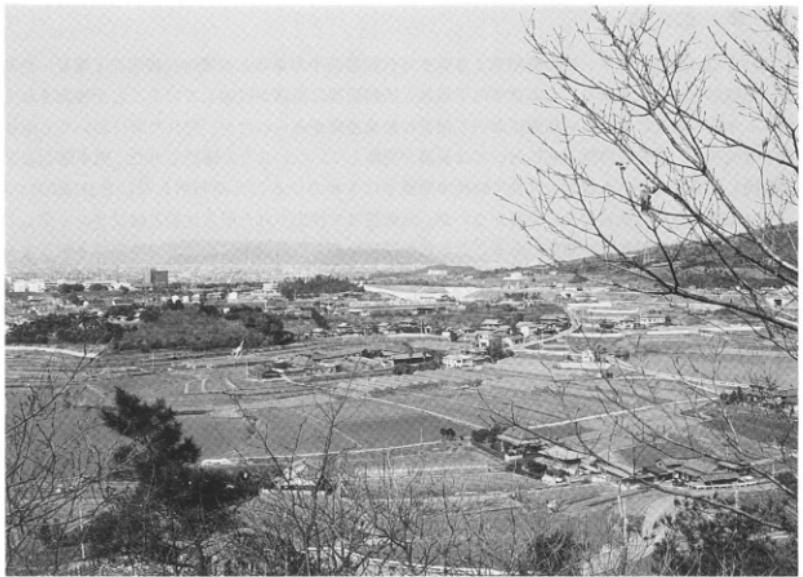


写真1 遺跡遠景（富士の越山頂古墳より）

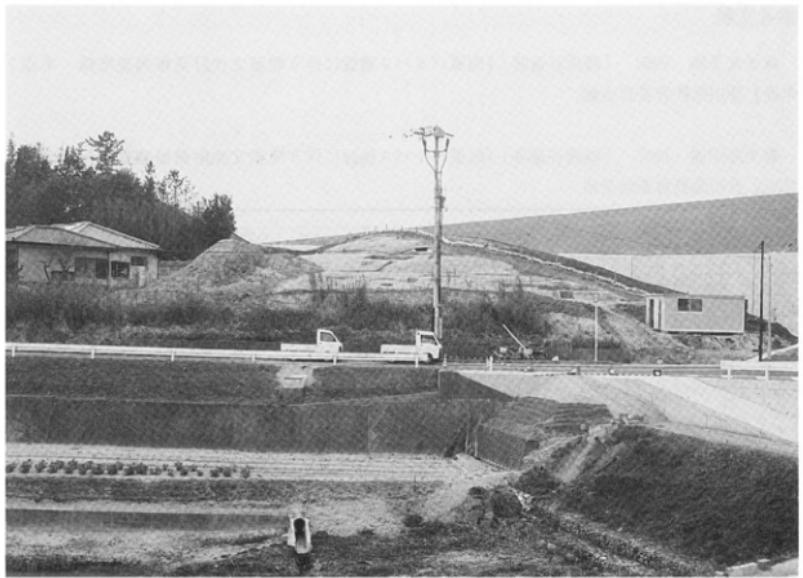


写真2 調査区近景（東より）

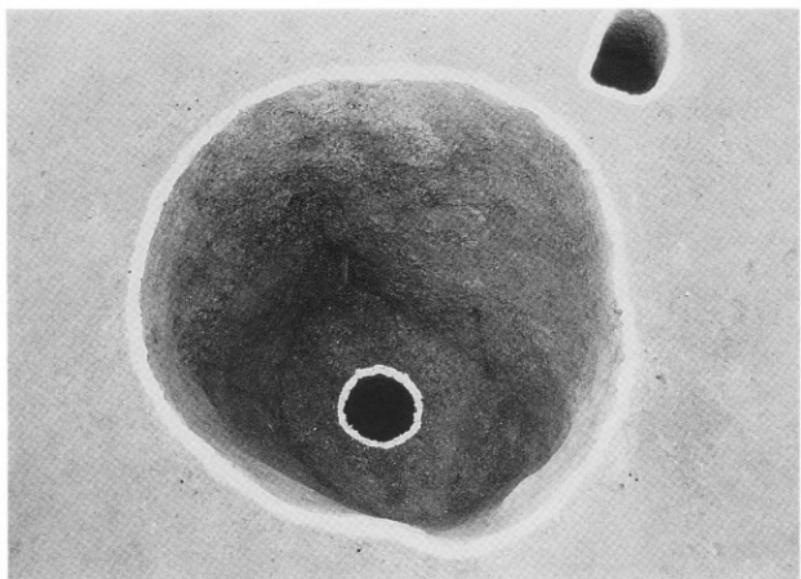


写真3 SH01完掘状況（東より）

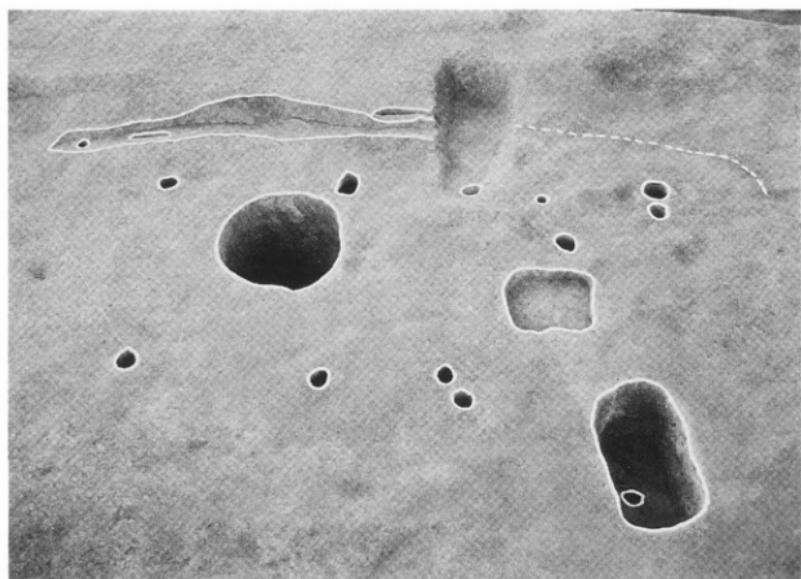


写真4 SH02, 03, SK03, 04完掘状況（南東より）



写真5 SK 03完掘状況（南東より）



写真6 発掘調査作業風景

報告書抄録

| | | | | | |
|---------------|--|--------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------------------|
| ふりがな | みきょうないいせき はくつちょうさ ほうこくしょ | | | | |
| 書名 | 三木町内遺跡発掘調査報告書 | | | | |
| 副書名 | 平成9年国庫補助事業報告書 | | | | |
| 卷次 | 1998.3 | | | | |
| 編集者名 | 三木町教育委員会 社会教育課 土事 石井健一 | | | | |
| 編集機関 | 三木町教育委員会 | | | | |
| 所在地 | 〒761-0692 香川県木田郡三木町永上310 TEL087-898-1111 (230) | | | | |
| 発行年月日 | 1998年3月31日 | | | | |
| 頁数 | 例言・目次 3頁 | 本文 12頁 | 図版 6枚 | 総頁 18頁 | |
| ふりがな 所取遺跡名 | 所在地 市町 遺跡 | コード 37341 | 北緯 34度 17分 39秒 | 東経 134度 7分 47秒 | 調査期間 1998.01.05~ 1998.03.08 |
| 西浦谷遺跡 | 三木町 池戸 1628-1,2 | | | | 1312 民有地 地づけ |
| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
| 西浦谷遺跡 | 集落 | 弥生時代 | 堅穴住居 土坑 | 弥生土器 石器(石礫) | 高地性集落 |

平成9年度国庫補助事業報告書

三木町内遺跡発掘調査報告書

平成10年3月31日

編集・発行 三木町教育委員会
木田郡三木町水上310
電話(087)898-1111

印 刷 株式会社 中 央 印 刷 所